

会 議 結 果 報 告 書

令和 6 年 1 2 月 2 日

会 議 の 名 称	令和 6 年 度 第 1 回舞鶴市発達支援体制検討会議	
種 別	☐ 附 属 機 関 ☒ 懇 話 会 等	
開 催 日 時	令和 6 年 1 0 月 2 2 日（水） 1 4 時 ～ 1 6 時	
開 催 場 所	舞鶴市中総合会館 4 階 4 0 1 会議室	
出 席 者	小谷裕実、四方あかね、平進、内藤信雄、楠崇智、中森裕、仲川真広、西邑公子 事務局（松本真俊、森輝明、霜山美穂、瀬野勝久、飯田美和、日下部亘、守屋和行、鎌部晶子、真下知子、村上梨歩、尾上あかり、長沢凜、植田葵、内藤恵美）	
議 題	（１）舞鶴市における発達支援体制整備の経過及び現発達支援体制について （２）関係機関における発達支援の取り組みの現状及び課題について （３）意見交換	
公 開 の 区 分	☒ 公 開	
	☐ 部分公開	[理由]
傍 聴 者 数	0 名	
審 議 結 果 及 主 な 意 見 等	別紙参照	
会議録の作成様式	☐ 詳 細 ☒ 要 約	
備 考		

担 当 課	舞鶴市 健康・こども部 こども家庭しあわせ課 TEL （ 0 7 7 3 ） 6 8 - 9 1 5 5
-------	---

第1回 舞鶴市発達支援体制検討会議 報告書【要約版】

日時：令和6年10月22日14時～16時

出席者：別紙参照

場所：中総合会館4階 401会議室

1. 舞鶴市における発達支援体制整備の経過及び現発達支援体制について 資料1

- ・ 本市における発達支援の取り組みは、平成16年度から本格的に開始し、保健、医療、福祉、教育の関係機関で構成する幼保小連携発達支援会議を設置し、乳幼児健診の改善や保育所、幼稚園等への専門職チームによる巡回支援など、こどもの発達特性に合わせた支援に取り組んできました。
- ・ 近年、家庭関係の複雑化、多様化という背景に加え、発達に支援が必要なこどもの数は増加傾向にあり、現行の発達支援体制にも課題が生じてきていることから、各支援機関の取り組みを評価・分析し、本市の社会資源や強みを生かした支援体制の再構築が必要と考え、本会議を開催することとした。
- ・ すべてのこどもたちが地域の居場所と役割を持って自分らしく生きていけることを目指して、「安心を届ける」「自分らしく生きる」「支えあい」の3つの視点で議論を進め、発達支援体制強化に向けた方向性を導き出したい。

2. 関係機関における発達支援の取り組みの現状と課題について 資料2

◇こども家庭センター

- ・ **乳幼児健診**
 - ☆ 受診率はほぼ100%であり、ほぼ全てのこどもの状況が把握できるため、支援が必要な方への対応ができる。
- ・ **おひさま相談**
 - ☆ 発達の心配、集団生活で不安がある方などを対象とする発達相談の場。相談内容は、言葉の遅れが最も多く、相談の結果は、療育機関への紹介が約半数を占めている。
- ・ **のびすく教室**
 - ☆ 発達支援が必要なお子さんを対象に親子で参加する遊びの教室。保護者がこどもの成長や笑顔を感じる機会となっており、終了後は療育につながるケースが32%と早期支援ができる教室になっている。
 - ☆ 教室終了後、にこにこルームに案内しても利用されなかったり、療育が待機となるなど、支援が途切れる期間がある。
- ・ **にこにこルーム（乳幼児教育センター）**
 - ☆ 支援が必要と思われる親子の集団経験の場。気兼ねなく遊ばせることができ、関わり方を学ぶ機会になっている。就園先への引き継ぎも実施。

・医療的ケア児居宅等生活支援事業等

- ◇ レスパイト、医療的ケアのため保育所への看護師派遣、入院時の付き添い支援などを実施。
利用実績は少ないが、必要な時にいつでも利用できる体制を整えている。
- ◇ 疲弊していてもギリギリまでレスパイトを利用されないことがある。

・タクシー利用券交付

- ◇ 月2千円の利用券を交付。予約しても2時間待ちとなることがある。

・医療的ケア児等コーディネーター配置事業

- ◇ 制度に関する情報提供やつなぎを実施。保護者が見通しを持つことができ、安心感に繋がっている。

◇乳幼児教育センター

・にじいろ個別支援システム

- ◇ 専門職で構成するチームが、園を巡回し支援が必要なこどもの状況を把握して、適切な保育環境や支援方法を助言する。令和5年度は24/27園申請あり。
- ◇ 園からの申請や保護者の同意がないと巡回できず、R6年度に保護者の同意がなく利用できないケースが3件程度あり。

・コミュニケーション力育みルーム「なかよしルーム」

- ◇ にじいろ個別支援システムの事後支援として、小集団でコミュニケーション力や社会性を育む機会を提供。希望があれば保護者との個人懇談や、必要に応じて就学後学校へ訪問し助言指導を行っている。
- ◇ 園を通じて対象児に案内するが、都合がつかない方、必要性を感じられない方は参加されない。

・発達支援ファイル

- ◇ こどもの発達にあった適切な支援が行えるよう、当事者と関係機関が保健・福祉・医療・教育の記録を行い、情報を共有するもの。
- ◇ 平成22年から運用しているが活用されていない。理由として、誰がいつどのようにファイルを渡し、どう活用するかが不明確であったり、紙媒体による不便さなどが考えられる。

◇教育委員会

- ・ 小中学校では、通常の学級、通級指導教室、特別支援学級など多様な学びの場があり、児童生徒1人1人が適切な学びの場で適切な支援を受けられる環境づくりを行っている。
- ・ 通常の学級（1学級35人以下）
 - ◇ 教育的支援を必要とする児童・生徒に関する調査結果から、各学級2、3人程度の児童が通常学級の中で困り感を抱え、支援を必要としていることになる。
- ・ 通級指導教室（個別に個々の状況に応じた指導）・特別支援学級（個々のニーズに応じた特別な指導が受けられる少人数の学級）
 - ◇ 特性や1人1人の教育的ニーズに応じた指導を安心できる環境で行えることから、自信をつけられるという声が多い。
 - ◇ 通級指導教室は、現在、小学校で3校、中学校で4校しかなく、他校の通級指導教室に通っ

ている。

- ・教育相談（適切な就学の場合を検討）

- ◇ 件数が増加しており、検査員や会場の確保及び日程調整が難しい。

◇京都府立舞鶴こども療育センター

- ・外来診療

- ◇ 小児科と整形外科があり、疾患によっては2科でフォローアップできる体制が整っている。精神科は医療センターに依頼。

- ◇ 小児科：疾患の特性上、一度来院された方は、ほぼ継続受診され、また18歳になったら終了等上限を設けていないので、一生のお付き合い。最近は再診患者が微増しており、初診患者の予約が入りづらい。また、再診も入りにくい状況になっている。福祉と連携しながら外来診療を運営している。

- ◇ 診察時に心理社会的治療、ペアトレ、応用行動分析的な話はしているが、難しいケースは心理士に依頼。心理士の予約も一杯で、今予約をするとR7.2月受診になる。基本的に1クール10回、初回にゴール設定をして課題が解決すれば終了としているが、解決しない方（ひとり親家庭、アダルトチルドレン、保護者の養育力の課題、外国人家庭の増加）もたくさんいる。

- ・リハビリテーション

- ◇ 理学、作業、言語聴覚療法を実施。言語聴覚療法の予約が入りづらい

- ・短期入所

- ◇ 諸事情で介護困難になった場合に、日帰り・宿泊で利用。気象警報による休校の場合も、空きがあれば利用できるように体制を整えている。週末が混み合い、平日はなかなか埋まらない。

- ・児童発達支援「ひかり」

- ◇ 主に重症心身障害のある未就学のこどもを対象に療育を実施。さまざまな行事をしており、保護者同士の交流も深まっている。

- ・保育所等訪問支援

- ◇ 臨床心理士が園を訪問し、接し方や環境整備などの助言。にじいろ巡回との違いは、園からの希望ではなく保護者との契約で実施。訪問前に心理士がこどもと会ったうえで訪問している。

◇京都府立舞鶴支援学校

- ・教育相談

- ◇ T S Cから小・中学校に巡回して発達検査や行動観察などにより、適切な特別支援教育への助言を行う。R5年度実績200件弱。

- ・発達支援ファイル

- ◇ 入学時にファイルを持参した方を見たことがないので十分活用されていないと感じている。

- ・移行支援

- ◇ 引継ぎの様式や方法が統一されていない。

- ・合同研修会

- ◇ 教育委員会と乳幼児教育センターと一緒にH28年度から実施。主に市内の特別支援教育のコ

ーディネーターを対象とする研修会。

・インクルーシブな学校運営モデル事業

- ☆ 文部科学省から委託を受けているインクルーシブな学校運営モデル事業（３年間）
城南中学校区の学校（城南中学校・池内小学校・高野小学校・中筋小学校）と支援学校が一緒に取り組んでいる。

◇舞鶴こども発達支援施設 さくらんぼ園

・療育

- ☆ 午前２グループ、午後１グループの小集団療育。年齢や発達課題に応じてグルーピング、１対１の療育体制。個々に応じた療育内容となっており、こどもが達成感を得られている。
- ☆ 保護者同士の交流の機会もあり、保護者のつながりが生まれている。

・相談支援事業

- ☆ 契約件数は９０件前後。令和５年度の延べ利用件数は１９７件。

◇両丹私立幼稚園協会（幼稚園）

- ・ 支援の必要なこどもは増えている。保護者の関心も高くなっている。
- ・ 個別支援（１対１）が必要な中で、職員のマンパワー不足、人的な配置も悩んでいる。
- ・ 発達課題の多様化で関わりの難しさも感じており、専門的な助言をいただける“にじいろ巡回支援”は非常に心強い。

◇舞鶴民間保育園連盟（保育所・認定こども園）

- ・ にじいろ巡回は、こどもの適切な支援だけでなく、保護者へのアプローチの第一歩にもなる。また保育士のスキルアップにもつながっている。
- ・ にじいろ巡回は児の成長発達＋加配保育者（補助金）運営費という両側面がある。
- ・ 療育センターの保育所等訪問支援事業は、こどもが落ち着いて園で過ごすことができ、職員の勉強にもなっている。一方で、保護者の同意がないと利用できないので、もっとこの事業が広がるとよい。

◇特別支援教育研究会

- ・ 特別支援学級のクラス数は増加し多様化、通常学級にも支援が必要なこどもがいる現状から、人材育成が必要。
- ・ 特別支援コーディネーターは、昨年度から小学校と中学校を兼務し、小～中のつながりの役割を担っている。ベテランの先生が多く、特別支援学級の先生が担うことも多い。
- ・ 発達支援ファイル：福知山市では保護者が移行シートを持っていっている。今は大学でも合理的な配慮が行われている。

◇京都府中丹東保健所

- ・ 別紙：発達障害者支援の課題と方向性参照
- ・ 保健所では、子育て支援者のスキルアップのための研修会を開催

- ・ 府独自の取り組み：年中児スクリーニングの実施体制整備（補助金制度）を行っている
- ・ 京都府全体としても発達障害を抱える児は増加傾向。発達障害領域に特化した医師の確保が困難な状況であり、地域の医療機関との連携による診療体制の整備が進むような仕組み作りが必要と感じている。

◇課題のまとめ

- ① 必要な方が利用できるしくみへと見直しが必要
にじいろ個別支援システム、なかよしルーム、さくらんぼ園の療育
- ② 多様な特性に適切な支援が行えるために支援内容の評価・見直しが必要
 - ・ 幼児対象の通級指導教室を設置し、連携、協働
 - ・ 教育相談の実施方法の検証（臨床心理士等の専門家の参加を含む）
 - ・ 小児科は一生のお付き合いなので、福祉や教育との連携が必要
 - ・ 5歳児健診の標準化、体制整備
- ③ 人材育成・人材確保・専門性の確保が必要
 - ・ 人員不足（幼稚園・保育所・療育の担当職員・小・中学校の支援員や教職員）
 - ・ 特別支援教育に係る教員のスキルアップ
 - ・ 自分の通う学校に通級指導教室の設置
- ④ 確実につながる移行支援のしくみ（ツール・方法）の強化が必要
 - ・ 発達支援ファイル
 - ・ 移行支援の様式や方法を統一し、デジタル化を検討

◇関係機関から出た課題・現状における共通のキーワード

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 人材（育成・世代交代・不足） ・ 専門性の確保/支援者の知識の底上げ ・ つなげる/つながる仕組みづくり（発達支援ファイル（移行支援シート）の活用） |
|--|

◇意見交換 テーマ：切れ目のない支援体制（発達支援ファイル）

- ・ 子育てに見通しがもてるように、発達支援パスシートがあればよい
- ・ 活用方法：支援者誰もが記載でき、次へつながるメッセージを残すことで、こどもや・保護者が説明しなくても、見れば家庭・学校・医療などの状況がわかり、共有することで多機関に包み込まれる移行支援シートになるとよい。
- ・ 様式：各校で移行支援シートが異なるため、整理をし、デジタル化を。
- ・ 教育支援計画（作成しても利用されないことが多い）もファイルにいらしてほしい
- ・ 保育要録を学校に届けているが、学校での活用状況が不明。学校と意見交換しながら記載内容の整理が必要。
- ・ 福知山市、京丹後市、与謝野町が移行シートを活用されており、根付いている。

～次回以降、共通のキーワードをもとに、各事業の方向性について具体的に検討を行う～